

「放射線測定値」は、どう読み取ればいいのか？ ①

福島第一原発事故は、なかなか終息に向っていないように思われる。

原発事故は人災だけに、避難区域の方々は、家、学校、仕事先から離され、怒り心頭だろうと思う。

さて、最近の原発関連報道では、避難区域以外の放射線量測定のことも多くなってきているように思う。

あるニュース報道では、幼い我が子を公園に連れて行った母親が、子どもが滑り台に行こうとするとまず滑り台上を、砂場に行こうとすると砂場を、ベンチに座ろうとするとベンチ上の放射線量を計っていた。

母親は何を安全数値と判断しているのだろうか、また、我が子を護るためにはここまで過剰に測定しなくてはならないものなのか、とも思った。

また、新聞誌上でも毎日東北地方の地図上に各市町村の放射線量が表示され、もちろん仙台の数値も表示されているが、その数値をどう読み取ればいいのかさっぱり分からない。

国際的に避難をするのが望ましいとされる場所の年間累積放射線量は、20～100ミリシーベルト（mSv）。

この数値を1時間あたりに換算すると、20（mSv）（＝20000マイクロシーベルト）÷（24時間／日×365日／年＝8760時間）＝2.28マイクロシーベルト（ μ Sv）／時となる。

自然界から人が受ける年間累積放射線量（世界の平均値）の2.4 mSvを1時間あたりに換算すると、0.27 μ Sv／時となる。

国際放射線防護委員会の自然放射線と医療行為による放射線を別として通常の放射線防護基準に近い「年間1mSv」を1時間あたりに換算すると、0.11 μ Sv／時となる。

次の計算法に意味があるかどうか分からないが、試みに、2.4 mSv（自然界からの年間累積放射線量）＋1 mSv（年間の放射線防護基準量）＝3.4 mSvを1時間あたりに換算すると、0.39 μ Sv／時となる。

原発安全神話が崩れた今、文科省の校庭使用基準の年間被曝量20 mSv（専門家の一人は「この値は大き過ぎる」と反対し文科省の参与を辞任）とていつ変更になるか分からないだけに、また、不安感は各自の感情に起因するものだけに、どの範囲内の数値を自分にとって安全値とするかは、自分なりに調べて自己責任で判断・納得するしかないのだろうか。

毎日報道される放射線測定値の安全指標値は、何に基づけばいいのか、どう読み取ればいいのか、どなたかヒントをください。